



元福小だより

No.10 令和8年2月27日

ふじみ野市元福岡3-15-2 TEL 264-5402 FAX 266-2796
E-mail motofukusho@fujimino.ed.jp



「当たり前」は「当たり前？」

校長 木内 芳仁

ふと、考えたことがありました。

朝、子供たちが登校する際、登校班で歩きながら、登校を見守ってくださっている交通指導員の方や、ゴミ出しをしていた地域の方に「おはようございます。」とあいさつをしました。あいさつされた方々も「おはようございます。気を付けてね。」と、あいさつを返してくれました。登校班の後ろについて歩いていた私も子供たちの後に同じようにあいさつしました。あいさつをし、あいさつを返してもらう。いつも行われていることでした。その日までは、私の中では当たり前の光景として認識し、特に気に留めたことはありませんでした。しかし、その日は「これは、はたして当たり前なのか」という疑問が頭に浮かびました。

日常生活において、誰でも自分の中で、または相手に対して「やって当たり前、できて当たり前」と思うときがあると思います。あらためて、この「当たり前」について考えてみると、人によって当たり前かどうかの基準は違うでしょうし、当たり前だと思うかどうかの価値観も違うと思います。今回のことを機に私自身を振り返ってみました。これまでの人生の中で、そのように思い込んだり、押し付けてしまったりしたことが多分にあったことに気付かされました。案外、大人は子供に対し、この「当たり前」を押し付けてしまうことがあるのではないのでしょうか。子供たちの成長のため、大人が教えることは当然必要です。しかし、子供たちは一人一人違います。すぐにできる子もいれば、時間をかけて身に付けていく子もいます。子供より経験を多く積んでいる大人として、一律に「当たり前」だと線を引くのではなく、できるまで長い目で見守ることも大切なのではないのでしょうか。

学校だより等で、度々お伝えさせていただいてきたように、元福小の子供たちは、とても素直に、一生懸命頑張っています。「当たり前」だと見る見方もできなくはないですが、決して簡単にできることではないというのが私の率直な意見です。昨年度同様、今年度も子供たちの「当たり前」かのように見える姿に、たくさんの感動をもらっています。これもひとえに、ご家庭の教育の力、ご家族のお子さんへの深く温かい愛情、地域の皆様の支えがあってこそです。校長として感謝の念に堪えません。

3月になり、今年度の学校生活も残り1か月となりました。「認め合い、励まし合い、挑戦を続ける学校」をめざし、この1年、子供たちにも教職員にも「挑戦すること」を求めてきました。学校では、子供たちが挑戦する場面をたくさん目にすることができました。ご家庭でも、お子さんが家庭学習や習い事、お手伝い等々、頑張っている姿を目にする機会はたくさんあったのではないのでしょうか。子供たちにとって、「もう1つ、もう1問、もう1分」と諦めずに取り組む行為は、すべてが挑戦です。

3月24日には卒業式、翌々日の26日には修了式が行われ、令和7年度の教育活動も区切りを迎えます。新たな年度も、子供たちはもちろんですが、関わる全員が「主役」となる学校をつくるために、地域協働学校元福小学校としての取組を進めてまいります。

保護者の皆様、地域の皆様、この1年も本校の教育活動へのご理解と、多大なるご協力をいただき、誠にありがとうございました。